

横浜市立平沼小学校 学校評価報告書(平成28～30年度)

| 重点取組分野 | 平成28年度 | | 総括 |
|----------------|---|---|----|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | |
| 確かな学力 | 子どもが自分のよさを生かして学びを創る授業づくりを進め、学習の習慣を身に付け、主体的に学習に取り組む力を育てています。 | 重点研究を通して、子どもの生活経験や学びをみとり、授業や単元の構成を考えていく大切さを職員間で共通理解した。スタディールームでは、子どもが自信をつけて教室に戻ってくる様子が見られた。多くの保護者の協力を得て、本よみタイムに「読み聞かせ」をしていただくことができている。 | B |
| 豊かな心 | 道徳の時間をはじめ、様々な教育活動を通して、自分や他人を尊重する心情や態度の育成、規範意識の向上が図られています。 | 授業参観による道徳の授業公開を例年通り行った。「あいさつ運動」にも取り組んだが、日常の挨拶の意識を高めることを通して、自分から進んで挨拶をすることができるようにしていきたい。異学年交流はたてわり活動でも取り組んでいて、よい関係を築けている。学校生活全体を通して規範意識の向上ができるよう指導していきたい。 | B |
| 健やかな体 | 家庭と協力し個に応じた生活習慣の改善を図り、日常の体育科指導や特設クラブ、「体力アップタイム」、食育等を通して健康・体力の向上を図っています。 | 「新体力テスト」の結果分析により、子どもの運動技能や生活習慣について共通理解できた。また、それをもとに「体力アップタイム」の年間計画を作成し、取組を進めている。特設タグラグビークラブの活動には4～6年生の約46%の子どもが参加している。アレルギー対応は、保護者と栄養士・担任とが密に連絡を取り合っている。 | A |
| 特別支援教育 | 特別な支援が必要な子どもに対し、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を立て、全校体制でそれぞれの子どもに合った指導が行われています。 | 個別支援担任と交流級担任による会議を行い、子どもに合った指導や環境を整えることができた。通級指導担当教諭と担任との会議の時間をとり、支援計画や指導計画を作成し、計画的に進めることができた。国際教室では、「日本語指導に係る個別の指導計画」を作成し、指導したり、宿泊体験学習の持ち物を絵で表して子どもや保護者に説明したりした。 | B |
| 子ども指導 | あいさつ運動が定着し、安心して楽しい学校生活を送ることができています。 ・いじめや暴力について、早期発見及び早期の丁寧な対応が行われています。 | 児童支援専任に頼りすぎの面があったが、学年で連携して子ども対応することができるようになってきた。「セカンドステップ」の実施により、問題に直面したときに自分で解決する姿勢が見られた。いじめの早期発見として子どもへのアンケートの実施、その後の対応を継続的に続けていく。 | A |
| 地域連携協働 | 学校説明会・学級や学年懇談会・平沼小懇話会、学校HP等により、教育のねらいが共有され、「平沼共育ネットワーク」を活用した運営がなされています。 | 平沼フェスティバルや授業等で、平沼共育ネットワークの方との連携が取れ、多くのボランティアの方にご協力をいただいて子どもの学びを深めることができた。高学年を中心として、納涼祭などの地域行事への積極的な参加があった。学校HPはほぼ毎日更新をし、学校内の情報を発信しており、保護者や地域の方からも喜ばれている。 | A |
| 人材育成・組織運営 | 教職員の専門性が向上するとともに、各種研修・学年研等を通して、教師力の向上が計画的に行なわれている。 | 「メンターチーム」ではお互いに授業を見合い、指導の基礎的な技術や教材研究等まで話題を広げ、児童指導の資質や能力の向上を目指して取組中である。教職員が学校運営を自分ごととして捉え、よりよい学校づくりのために自分には何ができるか意識して行動するよう、ミドルリーダーの育成に努めている。 | A |
| ブロック内相互評価後の気付き | <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等を通して地域の方や他者に対して感謝の気持ちをもったり伝えたりすることができるようになってきたと感じる。 ・自己肯定感を高めるためにも自分のよさを実感する場面をつくっていかなければならない。 ・さまざまな子どもがいるが、心の通じる子どもたくさんいる。子どもをみんなの前に出し、活躍させることが大切。 ・平沼フェスティバルは、日頃お世話になっている地域の方や授業をしてくださる企業の方に、子どもたちが感謝の気持ちを伝える良い機会となっている。 | | |
| 学校関係者評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者から学校側への要望において、内容を見るとご家庭で取り組んだ方がよい内容もある。 ・昔は自治会・町会での行事があり、多くの方が子どもとかかわることができていた。今は保護者が忙しいからそのような行事がなくなっているのがさみしい。 ・見まもり隊の方全員にあいさつをする子もいる。しかし、見まもり隊の方へのあいさつをしない子どももいる。見まもり隊の方の顔は分かるはずだから、見まもり隊の方にあいさつをするよう、保護者が伝えてくれるといい。 | | |
| 学校経営中期取組目標振り返り | <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもが期待して登校し、熱中して学び、満足して帰る学校づくり」を目指し、チーム平沼として取り組むことができた。教職員一人ひとりの意識をさらに高め、各自が主体的に学校運営に取り組むようにしていきたい。 ・子どもが自分のよさを生かして学びを創る授業づくりを推進し、そのために必要なことを職員間で共通理解することができた。また、学力・体力の向上を図る取組も行うことができた。 ・創立110周年を迎え、地域・保護者に対して子どもたちが主体となって感謝の意を伝える会を開くことができた。今後もより一層、地域・保護者との連携を図っていきたい。 | | |